

授業展開例（道徳）

- 1 校種・学年 小学校・第1学年
- 2 主題名 命のすばらしさ（3 - 生命の尊重）
- 3 ねらい 生命の尊さに気づき，大切にしようとする心情を育てる。
人権教育の視点
生命尊重，自尊感情，自他の理解と尊重
- 4 資料名 「ほやほやにいちゃん」（出典：『みんななかよく』東京書籍）

5 主題設定の理由

この時期の児童は，生命の大切さは概念的にはわかっているが，生きていることのすばらしさや生命について考えたり，生命の重さを実感したりする場面は少ない。そこで，自分の誕生や生育の過程を知ることで，自分の生命の尊さを知り，日常生活において，人や動植物など全ての生命あるものに深い関心を持たせ，優しく接し，大切にしていこうとする心情を育てていきたい。

本資料「ほやほやにいちゃん」は，お母さんのお腹の中で動く赤ちゃんや，みんなが心待ちにしている中で，生まれてきた赤ちゃんを見て，生命のすばらしさを感じることのできる資料である。自分が誕生したときの様子や，その時の家族や周りの人の思いを知ることにより，主人公の思いに共感させたい。また，自分もたくさんの人が心待ちにする中で生まれてきたことを実感させることで，自他の生命の尊さを深く考えさせることに適した資料である。

指導に当たっては，出産を迎えるお腹の大きいお母さんのことに触れ，無事に赤ちゃんが生まれてくるように，お母さん自身も自分の体をいたわっていることや，周りの人も注意していることに気づかせたい。そのためにもお母さんである保護者の方たちからの生の声を聞くことにより，命が誕生することの喜びと大変さを知らせたい。そして，家族が増えることの喜びを知り，自分が生まれたときもたくさんの愛情に包まれていたことを，家族のお話やお手紙を通して感じさせていきたい。また，自分がかげがえのない存在であると同時に，友だちもかけがえのない存在であることを考えさせていきたい。

6 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き（…留意点）	評価の観点（人権教育の視点）
導入	1 胎児の心音を聞かせる。	<p>これは、何の音が分かりますか。</p> <p>実際に胎児の心音を聞かせて、本時に対する興味付けを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の予想 （太鼓の音，早朝のテレビ放送の音，電車，赤ちゃんの心臓の音） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に興味を持つことができる。
展開前段	2 「ほやほやにいちゃん」の話聞いてよういちくんの気持ちを話し合う。	<p>場面に区切って、場面絵を提示しながら話す。</p> <p>よういち君がお母さんのお腹にそっと耳をあてると、くるっと動くのが分かった時、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の予想 （動いている，元気のいい赤ちゃんだな，びっくりした，お母さんは痛くないのかな） <p>お母さんから，お父さんへの電話を頼まれた時，よういち君はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の予想 （がんばらなきゃ，赤ちゃんが生まれるんだ，お兄ちゃんになるんだ，ちゃんと電話ができるかな，お父さん，早く帰ってきて，お母さん大丈夫かなあ） <p>お父さんから「生まれたぞ」と電話があった時，よういち君はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の予想 （やった，生まれたあ，ぼくはお兄ちゃんになった，お母さんは大丈夫かな） 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を注意深く聞き，内容をつかめる。 ・人の話を最後まで聞くことができる。 ・人の話を最後まで聞くことができる。 ・自分の考えを持ち，自分の言葉で表現できる。 ・自分の思いを話すことができる。

展開後段	3 赤ちゃんが生まれる前後のお母さんの気持ちを保護者から聞く。	みんなの時はどうだったでしょうか。 自分も大切に思われてきたことに気づかせる。(資料1)	保護者の方にみんなが生まれてくるまでの思いや様子について話していただく。 自尊感情
	4 ワークシートによろいち君の気持ちを書く。	赤ちゃんを見に行ったよろいち君の気持ちを考えましょう。 ・発言の予想 (お兄ちゃんになった、ぼくの妹ができてうれしいな、お母さんも元気そうだな、お母さんもうれしそうだな、かわいい、小さいなあ、よろしくね、大事に育てるよ、元気な赤ちゃんだ、お兄ちゃんになるのを待っていたんだよ、ぼくの家に行こうね。)	・ワークシートに自分の考えを表現できる。 生命尊重
	5 自分が誕生してから現在までの写真を見る。	この写真は誰だか分かりますか。(生後間もない写真と3・4歳ぐらいの写真2枚) ・発言の予想 (わたし、さん) 事前に集めた全員の写真を提示し、自分の成長や友達の成長に気づかせる。	・自分の成長を振り返ることができる。 事前に保護者に、生まれた時の写真と現在の写真を用意していただき、児童の目に触れないよう集めておく。
終末	6 お家の人からのお手紙を読む。	お家の方からみなさんにお手紙をいただいています。みんなに渡すから読んでみましょう。 自分あてに書かれた保護者からの手紙を、静かに読ませることで、家族の深い愛情にしっかり浸らせる。 誰もがたくさんの愛情に包まれて誕生することを知り、生命の大切さに気づかせる。(資料2)	事前に保護者には、子どもが生まれたときの気持ちを手紙に書いていただき、児童の目に触れないよう集めておく。 自尊感情 自他の理解と尊重

7 板書計画

あかちゃん
 ぼくもおにいちゃんだよ。
 ぼくもがんばるよ。

おかあさん
 げんきでよかった。

喜んでる絵

やった、うまれたんだ。
 おにいちゃんになった。
 おかあさん、だいじょうぶ。

電話をして
 いる絵

もうすぐおにいちゃんだ。
 ちゃんとでんわができるかなあ。
 おかあさん、だいじょうぶかなあ。

家族3人の絵

わあ、うごいてる。
 すごい。
 げんきな赤ちゃんだなあ。
 いたくないの。

ほやほやにいちゃん

おかあさん、妹と
 対面している絵

< 掲示資料 >

生後間もない写真

3・4歳ごろの写真

おかあさん,妹と
 対面している絵

資料 1 保護者の話の内容

おなかに赤ちゃんがいるとわかったときのおかあさんの様子と気持ち

「おなかに赤ちゃんがいると病院でわかったときとてもうれしかったです。赤ちゃんが生まれるまでに 20 回くらい病院に行って、私の体の調子やおなかの中の赤ちゃんが元気に育っているか先生に診てもらっていました。赤ちゃんが元気に育っているかいつも心配でした。」

おなかが大きいときのおかあさんの生活の様子と気持ち

「家の前がとても急な坂なのでいつもころばないようにゆっくり歩いていました。靴もあまりかかとが高くないものをはいて歩いていました。おなかがだんだん大きくなると思うように体が動かないのでちょっとしんどかったです。でも、赤ちゃんが生まれてくるのをとても楽しみにしていました。」

なかが大きいとき、周りの人に助けてもらったこととおかあさんの気持ち

「おなかが大きいときもお仕事に行っていました。一緒にお仕事をしている人が重い荷物を持ってくれたり、高い棚にあるものを私の代わりにおろしたりしてくれました。おなかに赤ちゃんがいることを一緒に喜んでくれたり、私の体のことを気遣ったりしてくれて本当にうれしかったです。」

資料 2 お家の人からの手紙の内容

あなたが生まれてくるのをとても楽しみにしていたのよ。

おとうさん、おねえちゃん、おにいちゃん、おばあちゃんがみんな楽しみにしていたのよ。

生まれてきてくれて本当にうれしかったよ。

おなかの大きいおかあさんとお風呂に入ったとき、おにいちゃんはいつもおかあさんのおなかをさわりながら「ぼくのかわいい赤ちゃん。」って言っていたのよ。

おとうさんとおかあさんのところに生まれてきてくれてありがとう。

この写真は、きょうだい初節句をお祝いしたときのものよ。

この写真は、あなたが生まれてはじめておねえちゃんが病院に来てあなたをだっこしたときのものよ。

資料 3 手紙を読んでいる時の児童の様子や保護者の感想

最初は、みんなお手紙を声を出して読んでいたが、だんだん静かになり、家族の愛情をしっかりと感じていた。

道徳の時間に、手紙を読んで、子どもは涙が出そうになったそうです。かわいい子です。

子どもから、道徳の時間の手紙に対してのお礼の手紙をもらいました。うれしかったです。

子どもが授業の最後に、お家の人からの手紙を読む姿は、とても印象的でその姿を見ているだけでみんな大切に育ててもらっていることが伝わってきました。わが子も、うっすら涙を浮かべているようで、いつも下の子中心になりがちなが多い中、自分に対する親の気持ちを改めて認識してくれたのだと思います。

家では、何度か声に出して読んでくれ「大切に思ってくれてありがとう」とのことばをもらった。良い機会を与えていただきありがとうございました。